

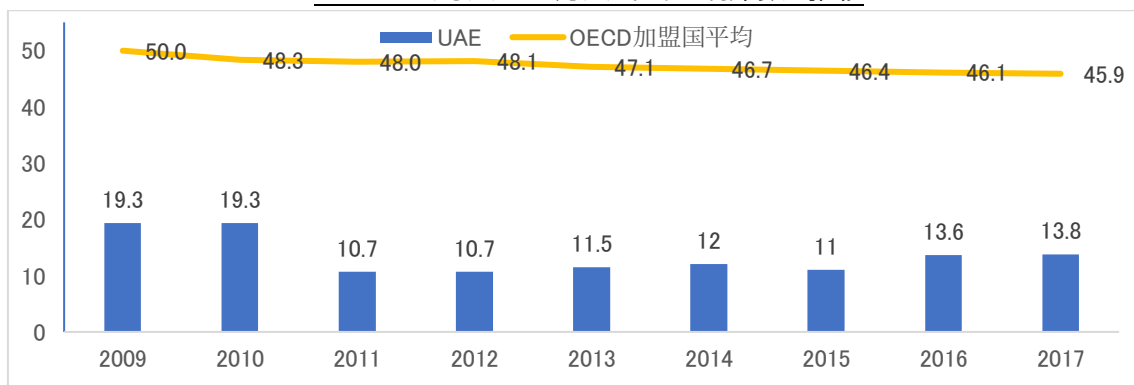
## UAE における医療ヘルスケア産業の現状と展望

### 1. UAE の医療課題

近年 UAE 政府は経済成長を支える柱の一つとして、医療の高水準化を推進している。2010 年に中長期戦略として「UAE ビジョン 2021/ナショナル・アジェンダ」を発表、UAE 建国 50 周年に当たる 2021 年に向け、医療分野を含めた 6 つの分野を柱とする成長戦略を定義した。医療サービスの質を世界レベルまで高めるために、最先端の医療・研究機関の誘致・新設が積極的に行われていることにあわせて、政府による品質基準が設定され、事業者は施設・サービスともにそれを満たすことが求められている。

UAE の医療分野において課題の一つとなっているのが、病床数の確保ならびに生活習慣病である。現在の UAE における総合的な医療施設の数としては、連邦統計・競争局が 2017 年に公開している数値が最新で、UAE 全体において、政府やフリーゾーン等の公的機関によって運営されている病院<sup>1</sup>が 45 棟、民間の機関によって運営されている病院が 98 棟となっている。2017 年の UAE の人口 1 万人当たりの病床数は 13.8 床で、同年のサウジアラビア（22.4）、カタール（12.5）、オマーン（14.7）、クウェート（20.4）等の周辺国と比較しても、決して高い水準とはいえない状況だ。急激な経済及び都市の発展と人口増により、UAE の 1 万人当たり病床数は 2000 年代と比較して少ない状況であり、OECD が推奨する 1 万人当たり 50 病床の確保という水準からも少々乖離している状況を鑑みると、十分な医療施設及びインフラを整備・提供することは、引き続き課題となっている。

UAE における人口 1 万人当たりの病床数の推移



出所：World Bank, OECD

<sup>1</sup> 公立病院では UAE 国籍者の医療費負担は無料である一方で外国人に対して一部受診制限があり、UAE の居住者の 9 割を占める在留外国人は民間病院を利用することが一般的である。

また、生活習慣病については、特に肥満を主な原因とした合併症が顕著となっている。国際糖尿病連合(IDF)によると UAE の糖尿病の罹患率は人口の約 20%で、糖尿病予備軍（「糖尿病」と診断されるほどの高血糖ではないものの、血糖値が正常より高い状態）で今後 10 年以内に糖尿病を発症するリスクが高い人を含めると、実に人口の約 32%相当が糖尿病の状態または、高いリスクにさらされている状態である。政府は糖尿病や癌、生活習慣病を未然に防ぐため、流行や健康リスクに対処する医療制度の整備・強化を推進している。

ドバイにおいては、2020 年 9 月にグルーケア統合糖尿病センター（GluCare Integrated Diabetes Center）と呼ばれる糖尿病を専門とした医療センターが開設した。同センターはシリコンバレーに拠点を持つパートナー企業と協業し、UAE において、スターターキット（バンド、体重計、血糖計、保険会社に依拠して、継続的な血糖値モニターと血圧計）を患者に提供し、それらのデバイスをすべてシステムに接続することで、糖尿病患者の状況をリモートモニタリングしつつ、機械学習を使用して傾向を認識し、ケアプランを順調に進める等のケアを提供している。このような、デバイスからデータを収集し、アルゴリズムを使用して継続的に患者の状況を分析するようなクリニックは湾岸地域において初であり、今後、糖尿病患者に対してさらに良い治療ケアが提供されることが期待されている。

そのほか、ドバイにおいては、ドバイ観光庁などが主催し、スポーツへの関心や国民の健康意識を高めるためのイベントである「ドバイ・フィットネス・チャレンジ」を毎年で開催し、国民の定期的な運動の習慣付けと健康意識向上に努めている。

## 2. UAE の医療ヘルスケア産業の施策と取り組み

上述の国家戦略のほか、UAE の保健予防省（Ministry of Health and Prevention）は、「Innovation Health Strategy 2019-2021」を策定し、スマート・ヘルスケアの技術開発と促進を目指している。同戦略の具体的なゴールとしては、ロボット手術や遠隔医療などの高度な技術ベースの健康および治療サービスの提供、製薬およびバイオテクノロジー産業の発展、糖尿病や肥満などの疾患を治療するための医学研究の開発、医療システムを管理するための高度な技術システムの作成、予防目的でスマートテクノロジーを利用することによる、健康的なライフスタイルの促進、革新的な施設設計による運動の促進を掲げている。

そのゴールを達成するための手段として、①ヘルスケアにおける行政のリーダーシップ、②研究開発体制の構築、③健康な社会の実現を掲げている。①については、市民の健康を正確に評価するための革新的で効率的な診断サービスを作成し、最新のテクノロジーを使用して、専門的なアウトプットベースのケアと既存のヘルスケアデリバリーモデルの開発を促進すること、②については、革新的なヘルスケア研究における卓越性とグローバルリーダーシップの維持を目的とした研究がバナンスフレームワークを開発し、関係者を

巻き込み、パートナーシップを確立し、連邦政府、医療機関、学術機関、民間団体と協力したうえで、優先順位付け、サポート、フォローアップを備えた革新的な健康研究イニシアチブに対する効果的な戦略的サポートを提供すること、③については、地域社会の健康状態を正確に評価できる持続可能な検査モデルの導入し、健康的なライフスタイルを採用するコミュニティの意識を高め、健康的で心理的に安定した社会の実現を目指したメンタルヘルスの向上に努めることをそれぞれの戦略の軸として掲げている。

各酋長国の医療ヘルスケア産業振興の具体的な取り組みとして、ドバイ政府は2002年に医療関係に特化したフリーゾーンである「ドバイ・ヘルスケア・シティ(DHCC)」を開設している。現在、大型の総合病院や日系のクリニックも含め160の医療機関が入居し、90カ国から150名以上の各種専門家が従事しているほか、ドバイ酋長の名を冠した「ムハンマド・ビン・ラーシド医療・保険医療大学」がDHCC内に設置され、教育・研究拠点としての機能も有している。またドバイ政府は2016年には約33万人であった外国からの医療ツーリスト数を2020年までに年間50万人に拡大することを目標にしており、DHCCには医療ツーリズム専門ファシリテーターが配置されている。ドバイ政府はあわせて医療ツーリズムに特化した健康・観光・エンタメに関する電子ポータルサイトである“Dubai Health Experience” (DXH.ae)を開設、医療を目的とした渡航に係るビザの取得手続きを簡素化するなどの誘致策も展開している。ほか、現在の敷地面積の5倍の規模を有する「ヘルスケア・シティ・フェーズ2」の開発や、PPP方式も活用した公立メディカル・コンプレックスの拡張計画も進んでおり、地域の医療ハブとしての地位を確立したい構えだ。

アブダビでは2007年に公共部門の医療機関の運営・管理を担うアブダビ医療サービス会社 (SEHA)を組織し、アブダビ酋長の名を冠する病床数586の「シェイク・ハリーフ・メディカル・シティ(SKMC)」、451の「マフラク病院」、病床数732のシェイク・シャフブート・メディカル・シティ(SSMC)等、大型の公立病院が相次いで開設されている。またアブダビ酋長が兼任するUAE大統領のイニシアチブとして、財政規模の小さい北部酋長国への国立病院の設置を推進、ラス・アル・ハイマに「シェイク・ハリーフ特別病院(SKSH)」、ウンム・アル・カイワインに「シェイク・ハリーフ総合病院(SKGH)」、アジュマンに「シェイク・ハリーフ・メディカル・シティ・アジュマン(SKMCA)」が開設され、医療水準の高度化を図っている。

また、新型コロナウイルスの治療薬やワクチン開発についても、UAE政府は積極的な姿勢を示しており、国内で第III相のワクチン臨床試験を実施しているほか、アブダビ幹細胞センター (ADSCC) は、新型コロナウイルスに感染した患者の血液から採取した幹細胞を活性化させ、霧状にしたうえで肺に吸入させる治療法を開発した。実際に現地では、この治療を受けた患者73人全員が副作用無く回復したと報告されており、UAEの経済開発省は、幹細胞を利用した治療法の開発をさらに進めるため、ADSCCへ特許を付与し、現在、有効性を実証するためのさらなる試験を実施している状況である。ほか、アブダビのムバダラ・ヘルスケアは、英国の医薬品・医療製品規制庁が承認した免疫抑制剤の試験 (アルカディア) に一部資金を提供している。同試験を通じて、特定の酵素が「血糖値が上昇した糖尿病患者において通常急性に起こる過剰な免疫反応を抑制することにより、新型コロナウイルスを有する糖尿病患者を助ける可能性がある」とことを示唆している、とムバダラ・ヘルスケアは声明の中で述べている。

### 3. 市場参入の切り口とマーケット状況

医療ヘルスケア分野における市場参入の切り口としては、①病院・医療関係研究・サービス機関の進出・運営のほか、②医療機器・医薬品の輸出、③現地における先端技術の研究開発等があげられる。既述の通り UAE の医療ヘルスケア市場自体が拡大途上であるなか、病院数の増加によって市場も拡大している。人口増加や政府による医療に対する歳出の増加傾向等を踏まえると、今後も UAE における医療ヘルスケア分野における事業機会は順調に拡大していくものと考えられる。高品質を求めるニーズも高く、日本企業にビジネスチャンスのある市場といえよう。

#### ① 医療サービスの進出

UAE では前述の通り外資系企業の病院経営への参画が積極的に行われている。例えば、クレーブランド・クリニックは米国オハイオ州創立の同医院がアブダビに開設した総合病院である。同クリニックは UAE で初めて心臓移植の手術を実現させる等、これまで国内で実施されていなかった治療法を実行している。また、英国において創立された欧州で最古・最大規模の眼科専門医院であるムールフィールド眼科病院も 2006 年にドバイにて支店をオープンさせている。このように、外資系病院による現地拠点の設立や現地パートナーとの協業による病院経営は積極的に行われており、日系企業にとっても参入機会がある分野であると考えられる。

#### ② 医療機器・医薬品の輸出

医療機器をはじめとした精密な機械類の製造は UAE では基本的に行われておらず、ほとんどを輸入に頼っているのが現状だ。アブダビ、ドバイはじめ各首長政府が誘致に積極的に取り組んでいる一方で、UAE における製造業は食品や飲料、化粧品等の軽工業がいまだ中心となっている。医療機器の現地商流としては、完成品を現地の販売代理店がメーカーから輸入し、代理店がその完成品を病院等へ納入する、というのが一般的な流れである。また軽微なアフターケア及びメンテナンスは代理店が担当し、本格的な修理等が必要な場合にはメーカーが対応する、というのが一般的である。なかにはある程度のメンテナンス機能を構築し、自社が販売した装置が正常に稼働しているかを定期的に確認するといった細やかなアフターケアサービスを提供している大手代理店もある。2013 年から 2019 年にかけての主要な医療機器の輸入額を以下に記載するが、全体的に拡大傾向にあり、直近の医療機器の輸入額は、顕微鏡や回折装置、CT といった設備／大型装置類と、針等といった消耗品の輸入が拡大している。医薬品に関しては、UAE 地場の「ジolphar Gulf Pharmaceutical Industries Manufacturers）」がラス・アル・ハイマ首長国において医薬品製造を行っているが、医薬品も概ね輸入に頼っているのが現状である。海外大手製薬メーカーは、現地代理店を通じて販売を行っており、ジェネリック医薬品も多く流通している。

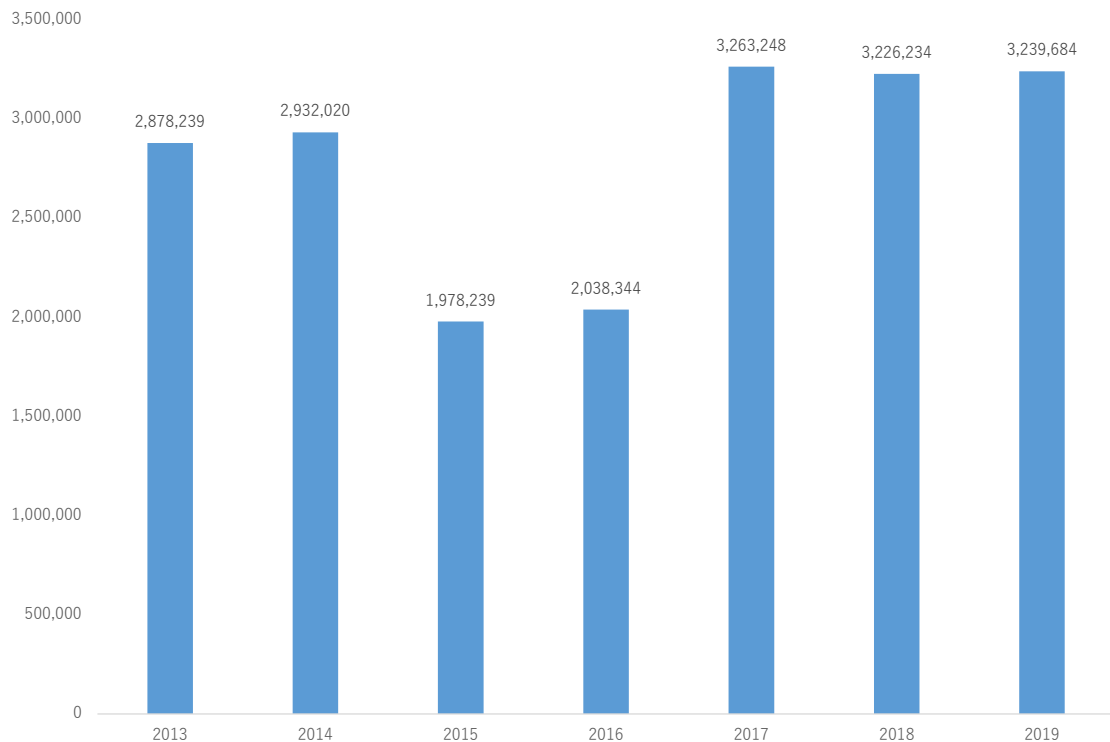
### UAE における主要な医療機器の輸入額の推移（千ドル）

| HSコード                   | 製品名   | 2013    | 2014    | 2015    | 2016    | 2017    | 2018    | 2019    |
|-------------------------|---|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 9012                    | 電子顕微鏡、陽子顕微鏡、回折装置<br>(Electron microscopes, proton microscopes and diffraction apparatus)  | 1,436   | 1,152   | 1,607   | 4,482   | 968     | 1,876   | 1,402   |
| 9022<br>(902212<br>を除く) | X線またはアルファ、ベータまたはガンマ線の使用に基づく装置<br>(Apparatus based on the use of X-rays or of alpha, beta or gamma radiations)                             | 93,405  | 128,995 | 98,618  | 68,100  | 116,400 | 124,874 | 134,838 |
| 902212                  | コンピュータ断層撮影装置 - CT<br>(Computer tomography apparatus)  | 12,185  | 30,540  | 7,674   | 11,050  | 30,038  | 36,300  | 21,786  |
| 901811                  | 心電図<br>(Electro-cardiographs)   | 3,034   | 4,395   | 3,714   | 2,510   | 4,287   | 6,691   | 4,488   |
| 901812                  | 超音波走査装置<br>(Ultrasonic scanning apparatus)  | 22,134  | 32,528  | 23,096  | 19,918  | 39,368  | 37,091  | 38,959  |
| 901813                  | 磁気共鳴装置 - MRI<br>(Magnetic resonance imaging apparatus)  | 18,499  | 22,671  | 24,643  | 17,663  | 34,615  | 41,975  | 29,487  |
| 901831                  | 医療用、外科用、歯科用または獣医学用の注射器<br>(Syringes, with or without needles, used in medical, surgical, dental or veterinary sciences)                   | 14,792  | 16,034  | 10,241  | 9,964   | 15,475  | 14,281  | 9,650   |
| 901832                  | 医療用、外科用、歯科用または獣医学用に使用される縫合用の管状金属針および針<br>(Tubular metal needles and needles for sutures, used in medical, surgical, dental or veterinary) | 2,646   | 3,898   | 3,532   | 4,036   | 4,640   | 5,881   | 6,122   |
| 901890                  | 医療、外科、または獣医学に使用される器具および器具<br>(Instruments and appliances used in medical, surgical or veterinary sciences)                                | 204,186 | 264,089 | 220,713 | 212,427 | 272,571 | 286,202 | 278,865 |

出所：International Trade Center

医薬品に関して、UAE における医薬品（HS コード 30.04 に該当する医薬品）の輸入金額は 2017 年に 32 億米ドルを突破し、2019 年までは同水準を推移している。以下に過去 7 年間の UAE における医薬品の輸入金額を記載する。

### UAE における医薬品の輸入額の推移（千ドル）



出所：International Trade Center

### ③ 現地における先端技術の研究開発

2020年10月に連邦保健予防省が発表した声明によると、UAE国内における国際的な製薬会社のラボあるいはマーケティング事務所は83件存在している。そのほか、4つの登録手続き中を含む19の製薬工場が存在しており、13が数年のうちに新しく認可される予定となっている。連邦保健予防省は、薬の自給自足のために、更なる国内生産、R&D拠点の誘致に力を入れる方針を打ち出している。

米経済誌フォーブスは、中東諸国は医療関係商品の製造拠点として外資系企業が投資することには課題があるものの、研究開発拠点としてはチャンスがあるとする記事を発表している。同紙によると、例えば既に製造拠点を世界中に有している大手の製薬会社は、製造拠点の統合による製造効率の向上を検討していると論じたうえで、中東諸国にとってはクリニカル・リサーチ拠点としてのインフラを提供することが、製薬業界において中東地域が提供できる価値を最大化する方法であると提言している。その文脈において、例えばドバイには既述のDHCCのほかに、「ドバイ・サイエンス・パーク（Dubai Science Park）」というフリーゾーンが存在しており、研究開発ラボ、バイオテクノロジー関連の教育・研究機関、製造業等の企業を積極的に誘致している。また、小規模ベンチャーから世界的な大企業まで幅広い企業規模に対応した設備及びインフラを備えており、外資企業を誘致しようとしている。

現地における先端技術の研究開発については、UAEがヘルスケアのイノベーションハブになるという壮大なビジョンを掲げていることから、様々な金銭的・非金銭的支援を事業者を提供しているということを含め、自社の新薬のシーズ開発、新たな治療法の研究、新規の医療機器の研究開発等といった分野で、UAE政府のバックアップを受けつつ、研究開発を実施できる可能性があることが挙げられる。そのほか、既に現地において研究等を行っている現地事業者と協業することで、自社の研究開発を加速させられる可能性がある。

## 4. 市場参入の機会と留意点

UAEでは国際展示会が多く開催されており、国外からの出展・来場者が大変多く、UAEのみならず近隣のGCC諸国や、中東・北アフリカ(MENA)市場のゲートウェイとして機能している。

ドバイでは毎年1月～2月にかけて「アラブ・ヘルス（Arab Health）」が開催されており、世界各国から10万人前後の来場者が訪れる、中東地域において最大の医療機器関連展示会となっている。医療・病院用機器をはじめ、各種医療技術、ヘルスケア用品、保険用品、医薬品、製薬・製剤、福祉・介護関連、リハビリ用機器等のメーカー及び販売店等が出展、2020年1月に開催された第45回目のArab Healthでは、世界中から39カ国のナショナル・パビリオンが設置され、66カ国から4,100以上の出展社が集結した。日本はJETROがジャパン・パビリオンを設置し、日系企業に出展スペースを提

供している。2021年2月初旬に第46回展が開催予定であったが、新型コロナウイルス流行の影響から延期となった。本稿作成時点での次回会期は2021年6月21日から24日となっている。

UAEには商業代理店法があり、本稿執筆時点では現地で商品・サービスを展開することができるのはUAE国民かUAE国民が100%出資するUAE企業に限定される。したがって現地展開には現地事業者と契約することが一般的である。展示会等をうまく活用することで現地企業とのコンタクトを増やし、協業先を見定めていくことが肝要である。国内に製造業の地盤の乏しいUAEは輸入に多くを依存しており、先行している欧米系メーカー等がどういった代理店と組み、どのように展開しているかを調査することも大いに参考材料となろう。なお医薬品及び医療機器のUAEへの輸出に関しては、保健省（Ministry of Health）による事前承認が必要となる点に留意が必要である。通常、UAEにおける対外税率は5%であるが、医薬品については課税が免除されている。

また2020年10月、アブダビ保健局が投資機会の計画を支援するために設定された計画ツールである「Certificate of Need (CoN)」を開発したと発表した。CoNは、ライセンス、キャパシティ管理、およびその他の複数のヘルスケアシステムにリンクされた予測データセットによって駆動され、投資家に首長国のヘルスケアの供給、需要、キャパシティのニーズに関するリアルタイムの情報を提供し、専門のヘルスケアサービスへの戦略的投資機会を可能にする。このツールは、自動化されたセルフサービスのWebベースのソリューションとして機能し、新規または改訂された医療施設のライセンス申請書の提出を検討している投資家向けのライセンス申請書をサポートする。また、首長国全体の特定の地理的位置での医療サービスの必要性を判断するのにも役立つと考えられている。2019年6月にはドバイ保健局も同様のガイドラインを策定中であることを公表しており、今後、具体的なシステムの内容が公表されることが想定される。

以上

◇あわせて参照ください：

- ・調査レポート：[アラブ首長国連邦（UAE）の医療機器市場（2011年3月）](#)
- ・調査レポート：[中東医療機器市場ディストリビューター調査（2017年3月）](#)

## ● マーケティング・レポート

### 「UAE/ドバイにおける医療ヘルスケア産業の現状と展望」（2020年11月作成）

- 作成：ジェトロ・ドバイ事務所、中小企業現地展開支援UAEプラットフォーム  
35th Floor, #3503 - #3506, The One Tower, Barsha Heights, TECOM, Dubai, U.A.E.
- 調査：プラットフォーム・コーディネーター（ksn Research & Consulting）

【おことわり】本資料は「UAE 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業」の一環として作成したものです。提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご利用下さい。ジェトロではできるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して不利益等を被るような事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。